

## 中部地区バスキュラーアクセス研究会の皆様へ：御挨拶

中部地区バスキュラーアクセス研究会： 代表世話人  
Asian Pacific Society of Dialysis Access (APSDA): President  
佐藤 隆

この度、中部地区バスキュラーアクセス研究会の代表世話人を辞することとなりました。またその任期が2024年3月末日までと知り、皆様へ最後の御挨拶を申し上げます。

中部地区バスキュラーアクセス研究会の発足は2006年、小職が名古屋の地に就任した年のことです。当時、天野泉先生は奈良の地におられ、当地区には透析アクセス関連の学術団体は存在していませんでした。そこで佐藤元美先生に代表世話人を御願いし、当研究会を発足した経緯がございます。一方、国際的連携の機会を模索しておりましたが2010年、韓国においてKorean Society of Diagnostic and Interventional Nephrology (KSDIN)の設立を機に翌2011年第一回日韓透析アクセスシンポジウム(Korea-Japan Dialysis Access Symposium: KJ-DAS)をソウルで、以後名古屋と韓国の交互でシンポジウムを開催することとなり、その母体が当研究会であったことは疑いの余地もありませんし、そのことはKSDINのウェブサイトをご参照いただければ明らかなです。これらを実現するにあたり当事務局や製薬企業の御尽力を仰ぎましたが、一部の世話人の方が指摘されているような特定の医療法人の経営的思惑が関与していたことは一切ありませんことをここに明言しておきます。

当研究会の歴史は18年を迎えました。この間、COVID-19パンデミックにより当会の運営は大きく滞り、未だその後遺症から抜け出せていないのかもしれないかもしれません。しかしながら一方では一般社団法人日本透析医学会関連地方学術集会（認定医制度5単位）、慢性腎臓病療養指導看護師（旧透析療法指導看護師：DLN認定資格5単位）、日本臨床工学技士（認定制度3単位）の認定を取得するなど地方学術団体として医師のみならず看護師・臨床工学技士の皆様にとりましても有意義な組織となったと自負しております。これらはひとえに世話人の皆様をはじめ会員の皆様の御尽力と努力の賜物であり、バスキュラーアクセスに関する知識・意見交換の場として当研究会の必要性を御理解いただいた結果であろうと自負する次第です。

さて本邦のバスキュラーアクセス作製・管理は世界的にも評価が高く、特にAsian-Pacificの国々から研修を希望する医師たちが多数存在します。反面、本邦で使用している機材や手技については限界があり、残念ながら現在、海外で使用可能な機材・手技に関する十分な情報が国内に入ってきておらず、われわれは積極的に海外事情もふくめた情報を求める努力が必要です。そのためには国際交流が一つの有力な手段であり、当会はその窓口を有する国内でも稀な地方学術団体と考えています。

この度、小職は当会の代表世話人ならびに医療法人偕行会を辞する決断をいたしました  
が、後任の代表世話人に坪井正人世話人が、また国際交流の任を村上雅章世話人が引き受  
けていただけたと聞き及んでいます。お二人にとっては大変なお仕事と思いますが、医師  
をはじめ臨床工学技士・看護師など多くのスタッフに対し新たな知識と技能を提供する  
という教育的側面や本邦のみならず諸外国のアクセス管理について広い視野・知見を共有す  
るという当研究会のミッション達成に御尽力いただけることを期待しています。

今後とも、当研究会が当地区の透析関連従事者や参加者の皆様にとってより有意義・有益  
な研究会となりますよう期待するとともに、長きにわたる皆様の御尽力に感謝申し上げま  
す。ありがとうございました。

2024年3月吉日